TOA

簡易取扱説明書

壁掛型9局デジタルレコーダー　C-DV092W-6

マニュアルのご案内

この機器には、次のマニュアルが付属しています。

［このマニュアル］	壁掛型9局デジタルレコーダー ［簡易取扱説明書］	本機の接続や基本的な操作のしかたを記載しています。
（別　冊）	壁掛型9局デジタルレコーダー ［設置説明書］	本機の接続や設置のしかたを記載しています。
（別　冊）	壁掛型9局デジタルレコーダー ［設定説明書］	本機の設定や操作のしかたを記載しています。

このたびは、TOA 壁掛型9局デジタルレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意 …… 3

接続のしかた …… 6
- 常用電源の接続 …… 6
- 各機器の接続 …… 8

各部の名称 …… 11

本機の起動と終了
- 本機の起動 …… 12
- 本機の終了 …… 12

モニターに表示させる
- 1画面表示で見る …… 13
- 多画面表示で見る …… 13

録　画
- 緊急録画 …… 14
- 自動録画（アラームイベント録画、ノーマル録画） …… 14

再　生
- 再生する …… 15
- 逆再生する …… 15
- 停止する …… 15
- 最も古い映像を再生する（最古再生） …… 15
- 最も新しい映像を逆再生する（最新逆再生） …… 15
- 早送り再生／早戻し再生する …… 15
- 一時停止する …… 16
- コマ送り再生／コマ戻し再生する …… 16
- イベント飛ばしをする …… 16

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号		
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け	アース線を接続せよ

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードの上に重いものをのせたりしないでください。火災・感電の原因となります。

禁　止

設置場所の強度を確認する

取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。

強　制

屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
屋外で使用すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。

禁　止

取り付けは２人以上で行う

1人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となります。

強　制

指定方法以外の取り付けかたをしない

指定の取付方法を守らないと、無理な力がかかり、落下して、けがの原因となります。

禁　止

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

適切なボルト、ナット類を使用する

壁または天井の材質、構造に適したボルト、ナット類を使用してください。
守らないと、落下して、けがの原因となります。

強　制

各部のボルト、ナット類は確実に締め付ける

取り付け後、ゆるみ、がたつきがあると、落下して、けがの原因となります。

強　制

常に振動する場所に取り付けない

振動で金具が破損し、落下して、けがの原因となります。

禁　止

電源のアースをとる

アース線を取り付けないと、漏電のとき、感電の原因となります。

アース線を接続せよ

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、主電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 音が出ないとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 画面が映らないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースなを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
内部を開けての作業は、専門業者にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁　止

開梱や持ち運びは２人以上で行う

1人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となることがあります。

強　制

金属エッジで手をこすらない

強くこすると、けがの原因となることがあります。

禁　止

ラックに取り付けるときの注意

次のことを必ずお守りください。
守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。
- ラックに取り付けるねじは、付属しておりません。ラックに合ったねじをご使用ください。

強　制

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

定期的に内部の掃除をする

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

接続のしかた

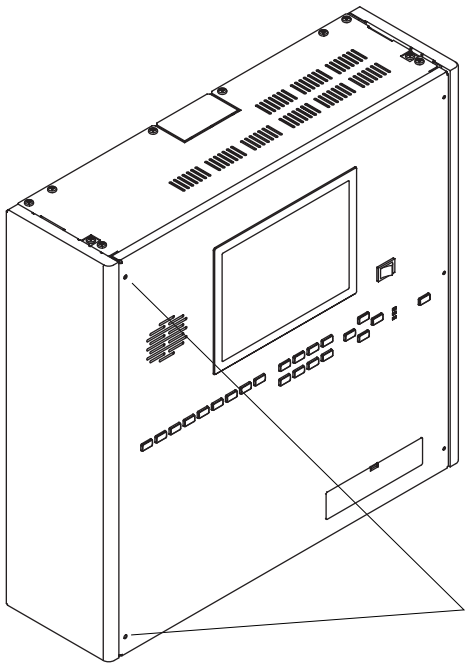
■ 常用電源の接続

- 電源コードは付属していません。別途ご用意ください。
- 電源コードは必ず導体の公称断面積が 0.75 mm² 以上の電気用安全法認定品をご使用ください。

1 **分電盤のスイッチを「切」にする。**

2 **前面パネルの扉を留めているねじ（2カ所）を外す。**

前面パネルを開きます。

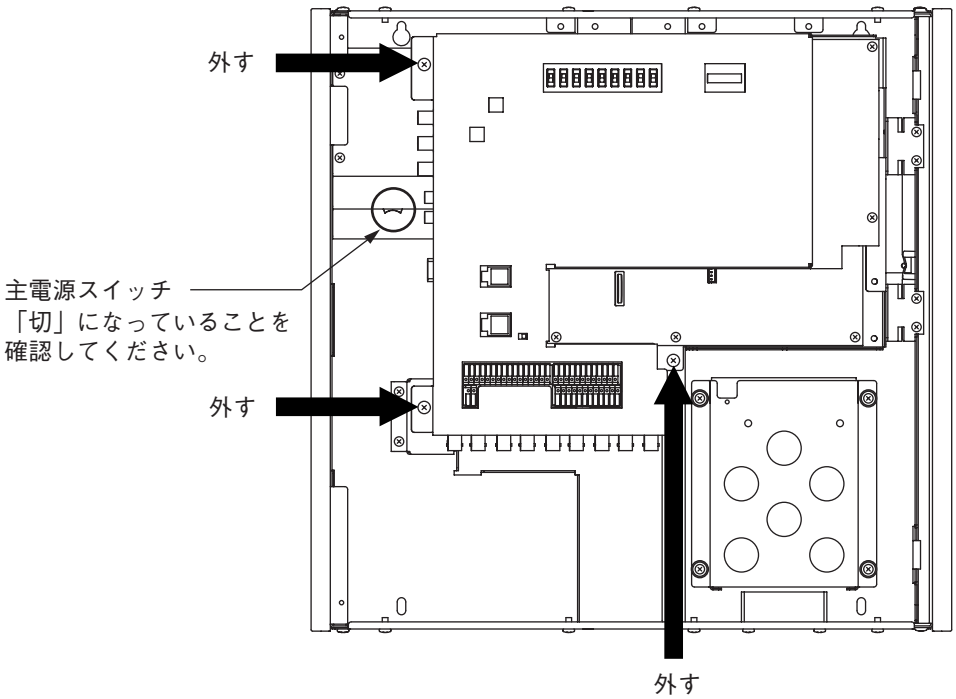


ご注意

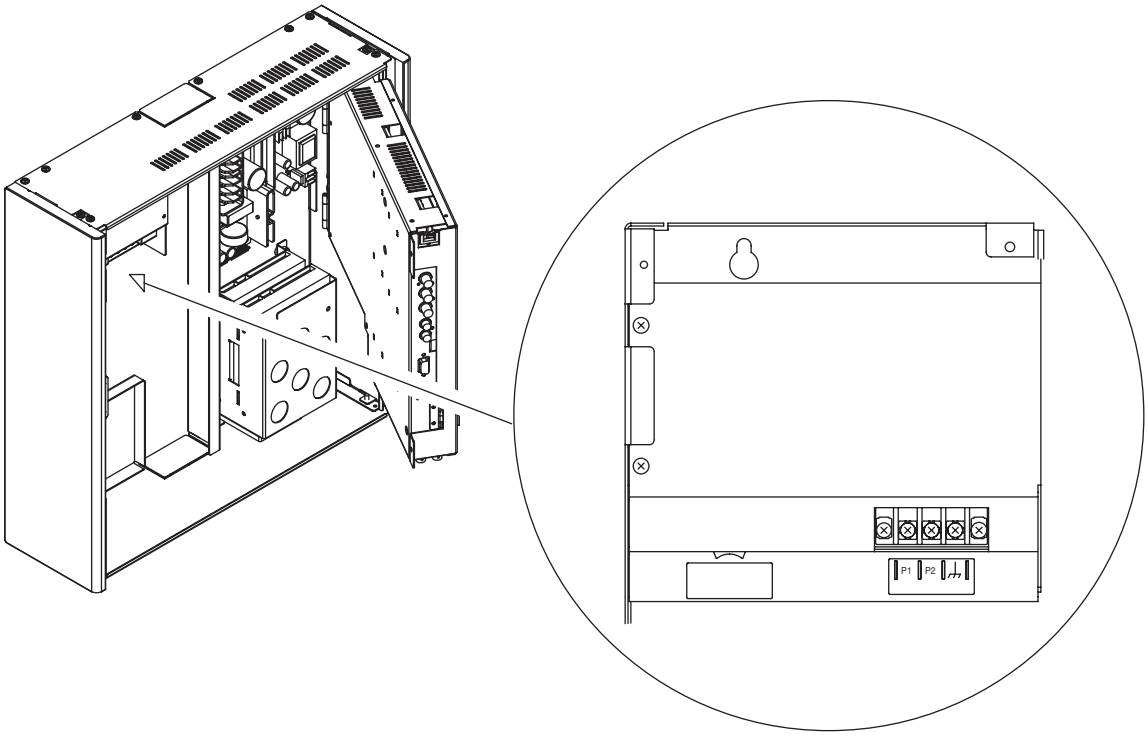
内部を開けての作業は、専門業者にご依頼ください。

3 **内部基板ケースを留めているねじ（3カ所）を外す。**

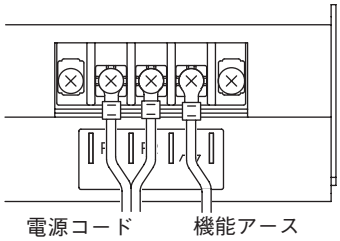
本機の主電源スイッチが「切」になっていることを確認してください。



4 内部基板ケースを開く。



5 端子台カバーのねじ（2カ所）を緩めてカバーを外し、電源コードと機能アースを接続する。



6 電源コードを接続後、端子台カバーのねじと内部基板ケースのねじを締める。

7 カメラを接続してカメラ電源スイッチ、ケーブル補償スイッチを設定する。
カメラの接続、各スイッチの設定は、P. 8「各機器の接続」を参照してください。

8 分電盤のスイッチを「入」にする。

9 本機の主電源スイッチを「入」にする。

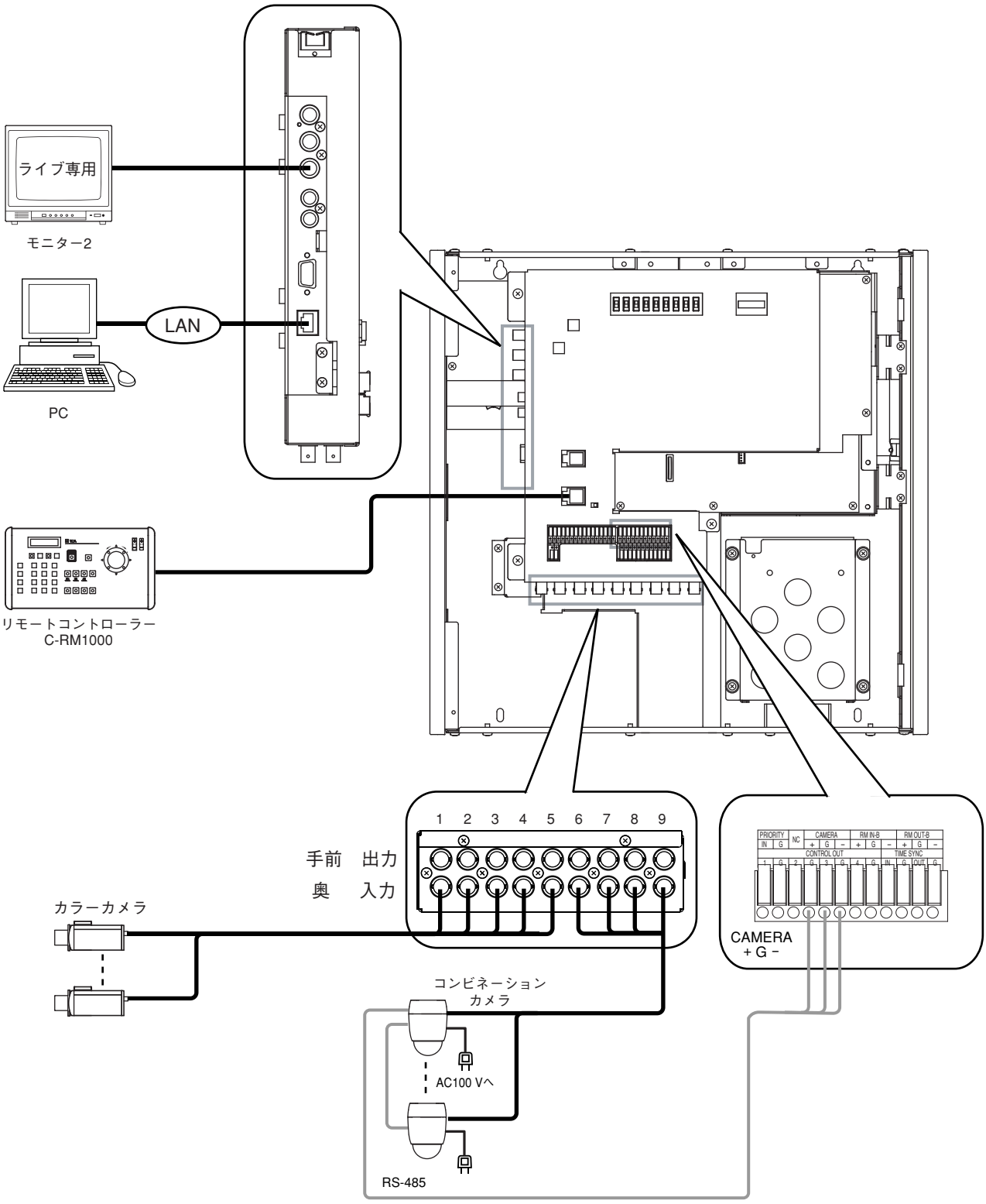
10 前面パネルの扉のねじを締める。

ご注意

常用電源（AC100 V、50／60 Hz）は開閉器から本機まで必ず専用配線とし、途中にコンセントを設けたりせず、直接接続してください。

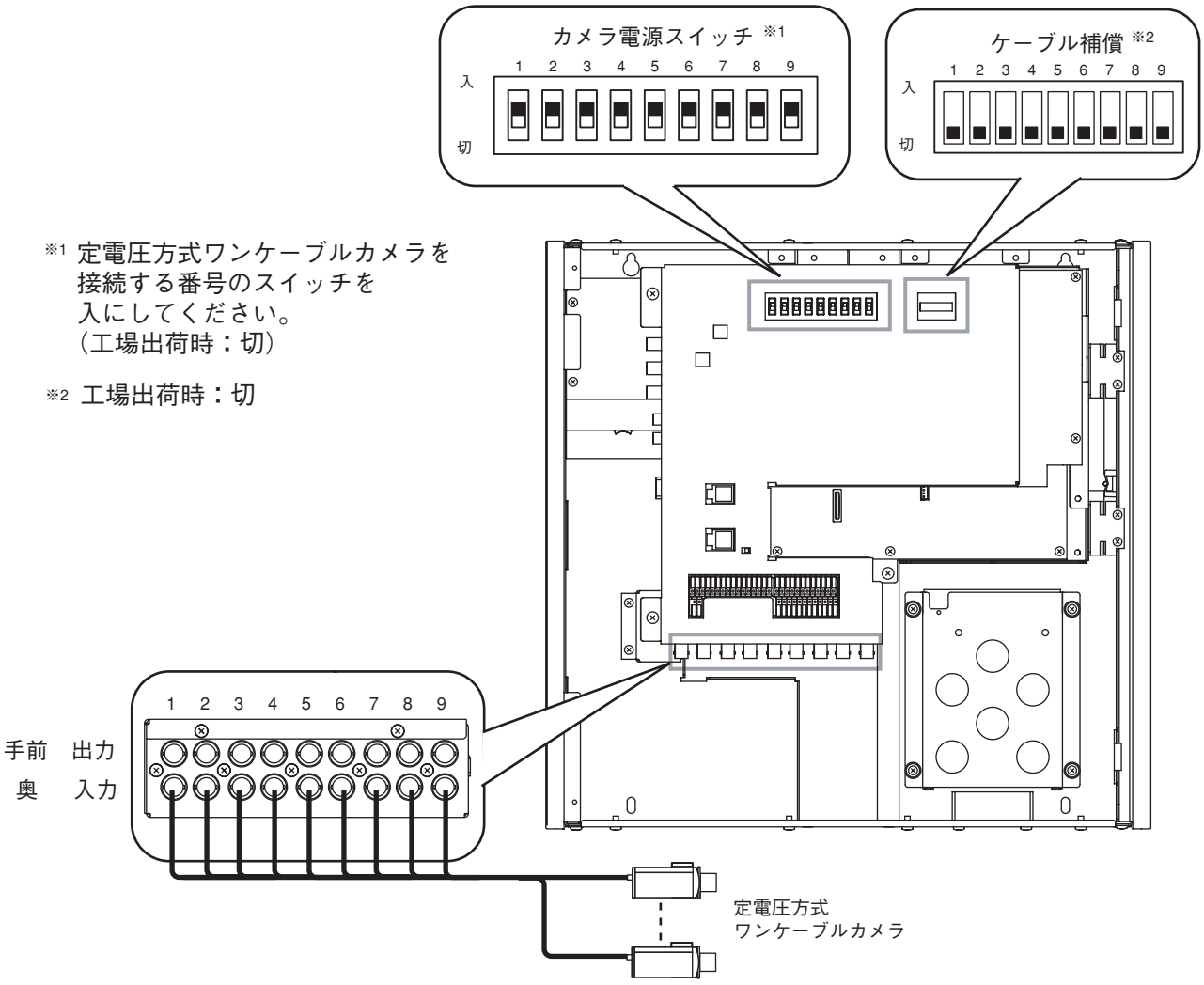
■ 各機器の接続

● 基本システム



● 定電圧方式ワンケーブルカメラを接続する場合

本機と当社の定電圧方式ワンケーブルカメラを同軸ケーブルで接続します。この場合、各カメラ毎にカメラ電源スイッチの設定を「入」にしてください。また、同軸ケーブルの延長距離に応じて、各カメラ毎にケーブル補償スイッチの設定をしてください。



同軸ケーブルの種類により伝送距離が異なりますので、右表を目安に設定してください。
規定された最大延長距離以上で使用すると、映像が乱れることがあります。

同軸ケーブル	ケーブル補償：入の目安	最大延長距離
5C-2V	400 m 以上	500 m
3C-2V	常時 切	200 m

ご注意

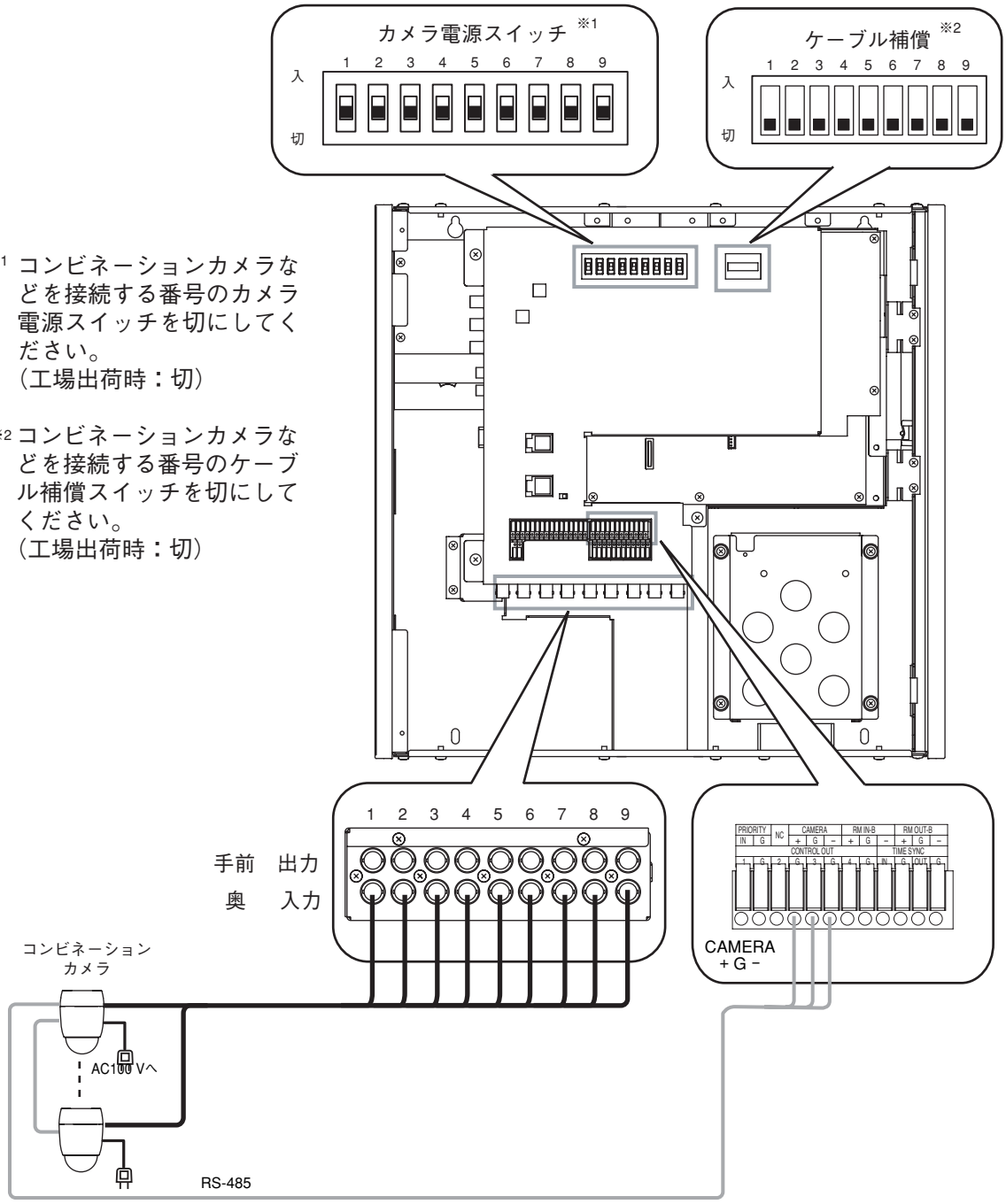
- カメラを接続する前、およびカメラ電流スイッチやケーブル補償スイッチを設定する前に、必ず本機の主電源スイッチを「切」にしてください。主電源を「入」にしたままカメラを接続してもカメラは動作しません。このようなときは、再度主電源を入れなおしてください。
- 定電源方式ワンケーブルカメラを接続するときは、必ず該当する番号のカメラ電源スイッチを「入」にしてください。「切」にすると正常に動作しません。また、故障の原因になります。
- 短い距離でケーブル補償スイッチを「入」にすると、機器の故障または誤動作の原因となることがあります。
- TOA 以外のカメラを接続すると、正常に動作しないことがあります。他社製カメラを接続した場合は、動作保証外となります。

● コンビネーションカメラなどを接続する場合

本機と当社のコンビネーションカメラなどを同軸ケーブルで接続します。この場合、各カメラ毎にカメラ電源スイッチの設定を「切」にしてください。カメラの電源はカメラ側で供給してください。また、ケーブル補償スイッチは「切」のままとしてください。

※1 コンビネーションカメラなどを接続する番号のカメラ電源スイッチを切にしてください。
（工場出荷時：切）

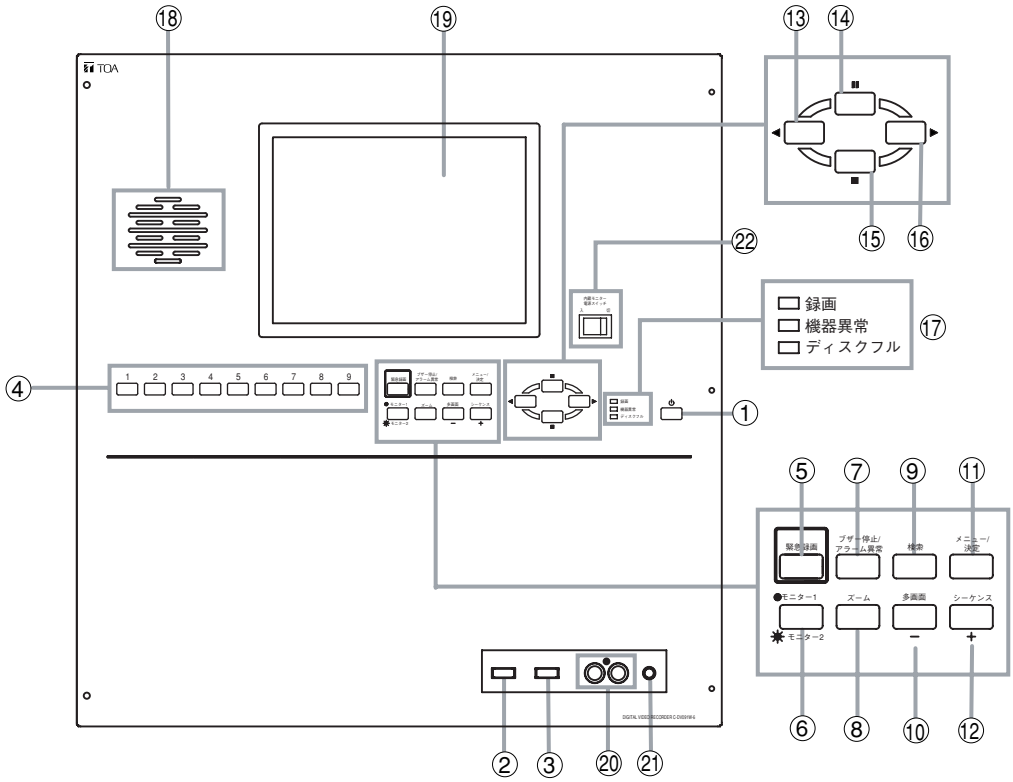
※2 コンビネーションカメラなどを接続する番号のケーブル補償スイッチを切にしてください。
（工場出荷時：切）



ご注意

- カメラを接続する前、およびカメラ電源スイッチを設定する前に、必ず本機の主電源スイッチを「切」にしてください。主電源を「入」にしたままカメラを接続してもカメラは動作しません。このようなときは、再度主電源を入れなおしてください。
- コンビネーションカメラなど、カメラ側で電源を供給するタイプのカメラを接続する時は、必ず該当する番号のカメラ電源スイッチを「切」にしてください。「入」にすると正常に動作しません。また、故障の原因になります。
- TOA 以外のカメラを接続すると、正常に動作しないことがあります。他社製カメラを接続した場合は、動作保証外となります。

各部の名称



① 電源キー[⏻]

② コピー端子

③ キーロック端子

④ カメラ選択キー

⑤ 緊急録画キー

⑥ モニターキー

⑦ アラーム解除キー
［ブザーストップ／アラームリセット］

⑧ ズームキー

⑨ 検索キー

⑩ 多画面、（ー）キー

⑪ メニューキー

⑫ シーケンス、（十）キー

⑬ 逆再生（◀）キー

⑭ 一時停止（▮▮、▲）キー

⑮ 停止（■、▼）キー

⑯ 再生（▶）キー

⑰ 情報LED

⑱ モニタースピーカー

⑲ 液晶モニター

⑳ ダビング出力

㉑ 音量

㉒ 内蔵モニター電源スイッチ

本機の起動と終了

■ 本機の起動

1 各機器を正しく接続します。

詳しくは、P. 8「各機器の接続」および、設置説明書を参照してください。

電源キー	LED 表示	状態
	消灯	主電源 切
	点滅（5 秒）	スタンバイ状態
	点滅（1 秒）	システムチェック中（起動中）
	点灯	電源 入（動作中）

2 本機への電源供給を開始し、主電源スイッチを「入」にします。

スタンバイ状態となります。
スタンバイ中は、電源キーが約5秒おきに点滅します。

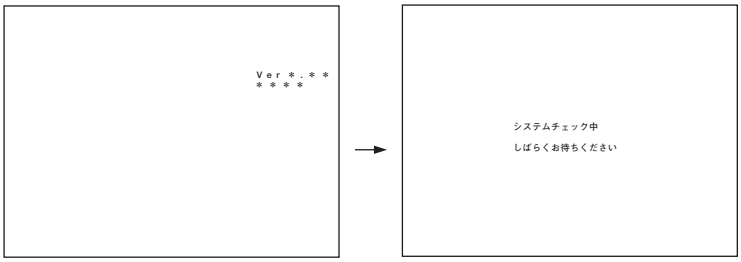
ご注意

電源キーが点灯中のときは、主電源スイッチを「切」にしないでください。主電源スイッチを「切」にするときは、必ずスタンバイ状態で行ってください。内部初期化中（ハードディスクにアクセス中）に主電源スイッチを「切」にすると、記録データを破壊する恐れがあります。

3 内蔵モニター電源スイッチを「入」にします。

4 スタンバイ状態で電源キーを押します。

下図のように画面が自動的に切り換わり表示されます。
システムチェック中は電源キーが緑に点滅します。
システムチェックが終了すると、電源キーが点滅から点灯に変わり、カメラの映像が表示されます。



ご注意

- 初めて使用するときは、日時が正しく表示されない場合があります。最初に時刻設定を行ってからご使用ください。詳しくは、設定説明書を参照してください。
- スタンバイ状態にして、約20秒間は電源を入れることができません。
- スタンバイ状態では、録画（緊急録画、自動録画）が行われません。録画をする場合は、必ず電源キーを押してください。

■ 本機の終了

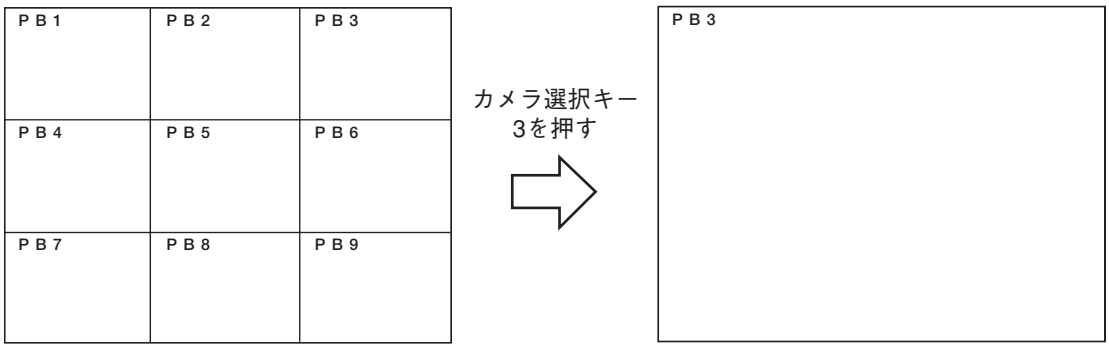
電源キーを2秒以上押します。

このとき、すべての動作が停止してスタンバイ状態となります。
本機を移動するときは、必ずスタンバイ状態にしてから主電源を「切」にしてください。

モニターに表示させる

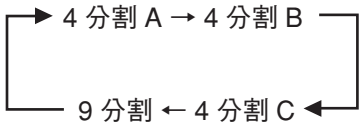
■ 1 画面表示で見る

ライブモードや再生モードで、カメラ選択キーを押すと、選択したカメラの 1 画面表示ができます。

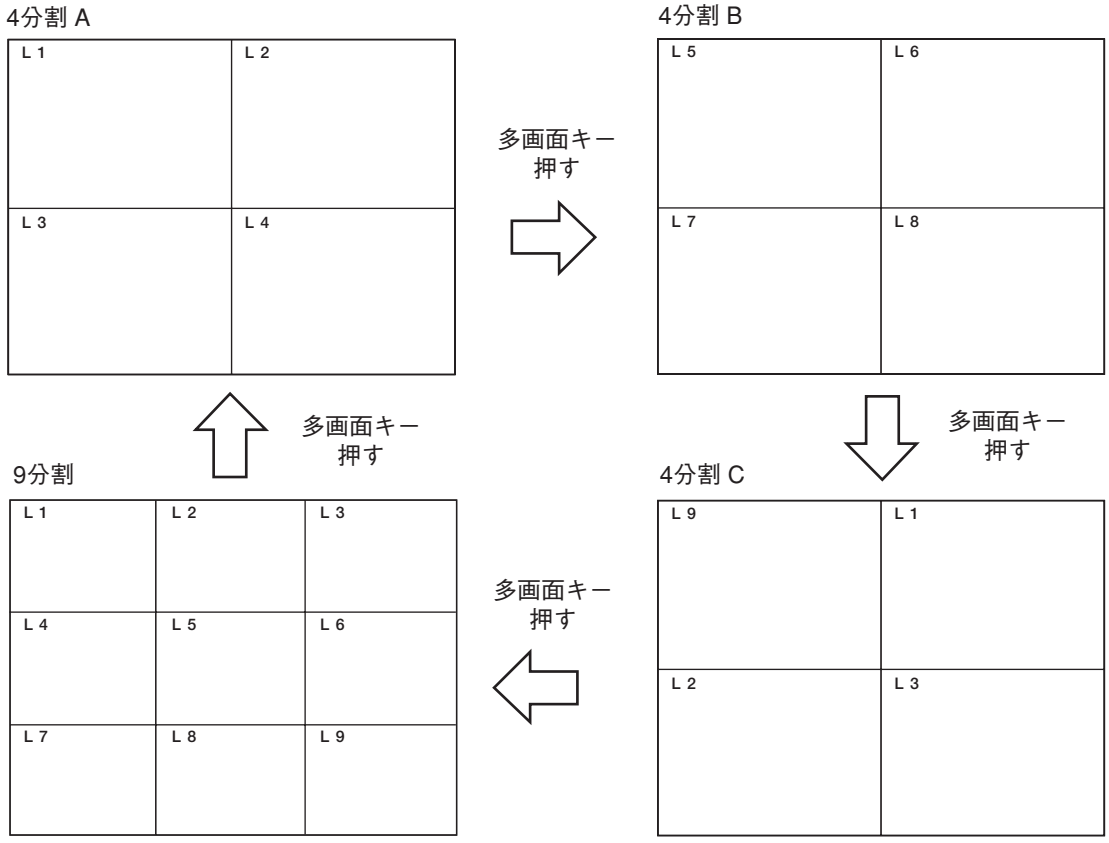


■ 多画面表示で見る

ライブモードや再生モードで多画面キーを押す毎に、下図のように多画面表示ができます。
多画面表示中は、多画面キーが点灯します。



（例）ライブモード の場合



録　画

■ 緊急録画

緊急録画は自動録画よりも優先した録画モードです。不審者が侵入した場合などの録画やスケジュール外での録画時に使用します。緊急録画では、各カメラ毎に録画する／しない、録画レート、画質の設定ができます。また、緊急録画での音声の有無を設定することができます。

[緊急録画のしかた]

1 **緊急録画キーを押す。**
緊急録画を開始します。ブザーを消す場合は、ブザー停止キーを押してください。

2 **緊急録画キーを2秒以上押す。**
緊急録画が終了します。

■ 自動録画（アラームイベント録画、ノーマル録画）

あらかじめ設定したスケジュールに従って録画を行います。スケジュールは12プログラムまで設定することができます。プログラムの時間が重なった場合は、番号の大きいプログラムが優先されます。プログラムには「曜日」、「開始／終了時刻」、「運用」があります。「運用」のグループ設定は、A～Fの6種類あり、ノーマル録画、アラーム録画時の録画設定を登録できます。また、最大60日の日付を設定して、異なるプログラムで運用するための特定日設定やカメラ毎にモーションエリアを設定するモーション設定、自動録画中の音声録音の設定をすることができます。

[アラームイベント録画]
アラームイベント録画には、アラーム入力録画とモーション録画があります。アラームイベント録画設定では、カメラ毎に録画の「する／しない」、「録画レート」、「画質」を設定することができ、それぞれに録画を開始するイベントを設定できます。
アラームイベント録画モードは、複数のイベントが発生した場合の録画動作を設定し、シーケンスの場合は、カメラ毎のイベントを複数設定することができます。アラーム入力の録画時間は、アラーム入力モードとアラームポスト時間で設定します。モーション起動の録画時間は、モーション検出モードとモーションポスト時間で設定します。
アラームイベントが発生すると対応したカメラ映像が1画面表示され、設定された時間が経過すると前画面表示に戻ります。

アラーム入力録画　：アラーム入力端子（後面）からの信号でアラーム録画を開始します。アラーム入力端子は、イベント設定で録画するカメラを設定します。
アラームイベント録画モードがシーケンスの場合、カメラ毎に最大4つのアラーム入力端子を任意に設定できます。
アラームイベント録画モードがラストの場合、カメラ番号と同じ番号のアラーム入力端子のみ有効／無効を設定できます。

モーション録画　：カメラ映像の動きを検知して録画を開始します。モーションエリア、感度および起動はモーション設定で行います。モーション検知カメラは、イベント設定で録画するカメラを設定します。
アラームイベント録画モードがシーケンスの場合、カメラ毎に最大4つのモーション検出カメラを任意に設定できます。
アラームイベント録画モードがラストの場合、カメラ番号と同じ番号のモーション検知カメラのみ有効／無効を設定できます。

［ノーマル録画］
スケジュールで設定されたカメラの映像を自動的に録画します。ノーマル録画設定ではカメラ毎に録画の「する／しない」、「録画レート」、「画質」を設定できます。
複数のプログラムを組み合わせると、昼間と夜間、平日と休日などスケジュール通りの録画を行うことができます。

再　生

■ 再生する

再生 ▶ キーを押す。

録画した映像を再生します。
再生すると再生キーが緑に点灯し、再生画面が表示されます。
再度再生したときは、前に停止した時刻から再生を開始します。

■ 逆再生する

逆再生 ◀ キーを押す。

時間をさかのぼって再生します。
逆再生すると再生キーが緑に点灯し、逆再生画面が表示されます。
再度逆再生したときは、前に停止した時刻から逆再生を開始します。

■ 停止する

停止 ▼（■）キーを押す。

再生中の映像を停止します。停止するとライブモードになります。

■ 最も古い映像を再生する（最古再生）

停止 ▼（■）キーを押しながら、再生 ▶ キーを押す。

録画された最古の時刻から再生できます。

■ 最も新しい映像を逆再生する（最新逆再生）

停止 ▼（■）キーを押しながら、逆再生 ◀ キーを押す。

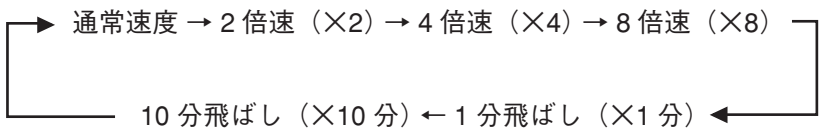
録画された最新の時刻から逆再生できます。

■ 早送り再生／早戻し再生する

再生中に再生 ▶ キー（逆再生中のときは逆再生 ◀ キー）を押す。

早送り再生（逆再生中は早戻し再生）になります。キーを押すたびに再生速度が2倍、4倍、8倍と変化します。また、1分飛ばし、10分飛ばしの画面を表示し、再生速度を速めることもできます。

再生速度



ご注意

- 時刻設定を過去に戻して録画を行った場合、1 分飛ばし、10 分飛ばしが正常に動作しないことがあります。
- ハードディスクのアクセス時間等により、表示速度で再生されない場合があります。
- プリ録画された録画データは、1 分飛ばし、10 分飛ばし再生はできません。

■ 一時停止する

1 再生中／逆再生中に一時停止 ▲（■■）キーを押す。

一時停止になります。一時停止中はキーが緑に点灯します。

2 再度、再生／逆再生を行うには、再生 ▶ キーまたは逆再生 ◀ キーを押す。

一時停止が解除され、再生（逆再生）を始めます。

■ コマ送り再生／コマ戻し再生する

一時停止中に一時停止 ▲（■■）キーを押しながら、再生 ▶ キーまたは逆再生 ◀ キーを押す。

1 回押すと 1 画面毎にコマ送り／コマ戻し再生をします。

■ イベント飛ばしをする

イベントが開始された時刻まで移動して一時停止します。
イベント飛ばしは、再生する映像をイベント単位で移動させることができ、短時間で必要な映像を探し出すことができます。

[次のイベントに飛ばすとき]

一時停止中に再生 ▶ キーを 2 秒以上押す。

次のイベントの先頭に飛んで一時停止します。

[前のイベントに飛ばすとき]

一時停止中に逆再生 ◀ キーを 2 秒以上押す。

現在のイベントの先頭に飛んで一時停止します。

TOA

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA インフォメーションセンター
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120-108-117
〒665-0043 宝塚市高松町 2 番 1 号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

TOA ホームページ　http://www.toa.co.jp/

133-22-086-9B